

図書館ミニ講座

「佐久を知る」第3弾

佐久の先人を語る

【詩人・教育者 依田稼堂】

学びたい若人に手をさしのべた人

2022.9.24

五郎兵衛記念館館長 根澤 茂

1. 依田稼堂のひと



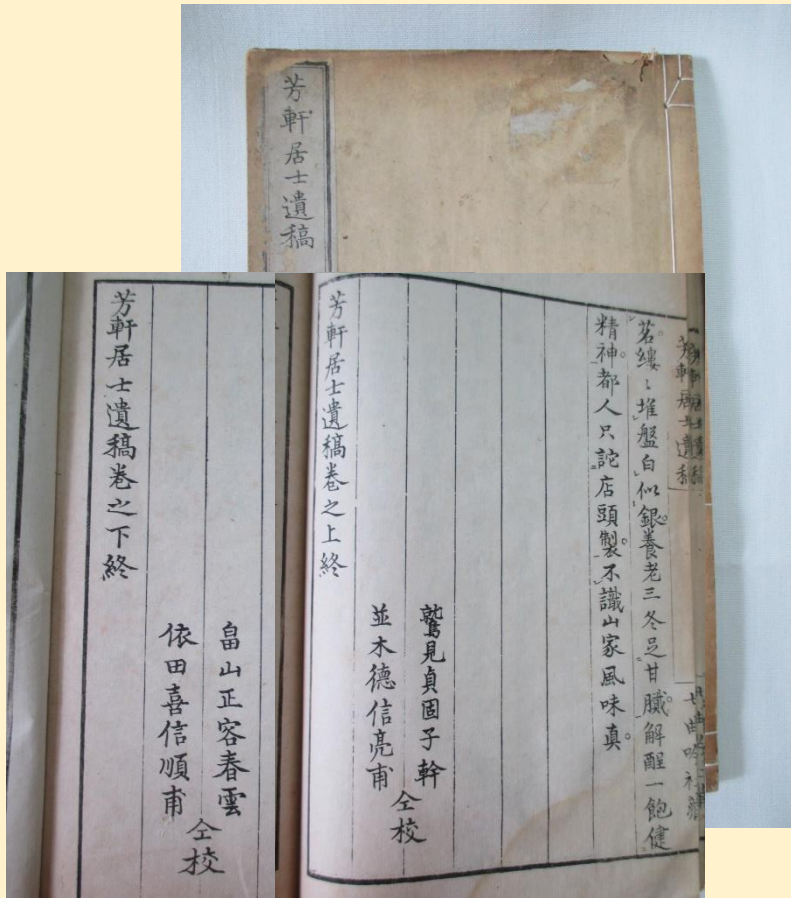
依田稼堂の生涯を象徴するもの
依田稼堂は、佐久の教育界に偉大な功績を残しながら、不思議なことに、肖像画も写真も一切残していません。

彼の足跡は、口絵写真と、五郎兵衛記念館に、ご遺族から寄託された、約2,600点の貴重な古文書の中に残されています。

依田稼堂 1849年(嘉永2)～1914年(大正3)

- 1 木内芳軒、明治三大詩人と依田稼堂。
- 2 市内各所で開塾し門弟1千数百人、俊英多数育成。
- 3 比田井天来が生涯変わらず師事した稼堂。
- 4 小諸義塾の木村熊二・佐藤知敬と稼堂。
- 5 神津勝元家と慶応義塾、そして成瀬利貞と稼堂。

2. 稼堂の生い立ちと学び



『芳軒居士遺稿』

明治5年(1872年)に早逝した恩師木内芳軒の遺稿を、明治3大詩人の全面的支援を受けて、弟子の依田稼堂、並木梅源、畠山春雲、鷹見貞固が出版した『芳軒居士遺稿』

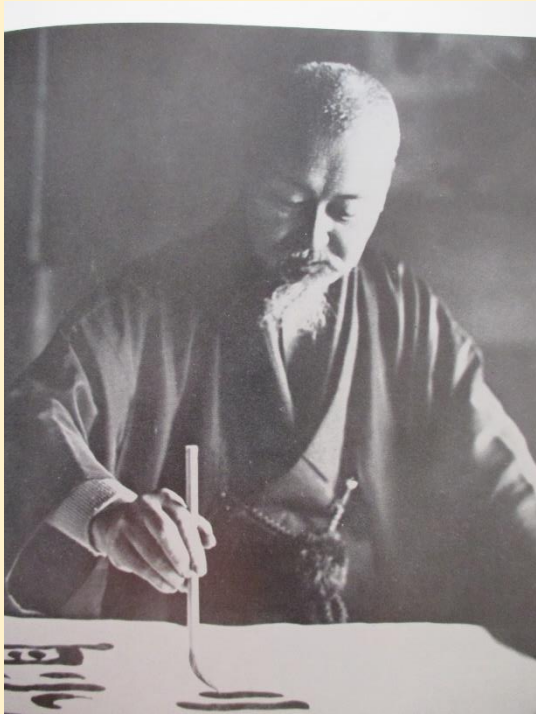
- 1 稼堂の生家と、五郎兵衛新田村の関わり。
- 2 天明浅間山大噴火と大飢饉が招いた不幸。
- 3 稼堂が学んだ下県村木内芳軒の「静古軒」
- 4 恩師木内芳軒病没後の稼堂。

3. 上京し学んだ稼堂の佐久での開塾とその後



- 1 明治10年(1877) に私塾を開塾。
- 2 明治13年(1880)1月から「依田有隣塾」
- 4 明治31年(1898)から明治44年(1898)ま
岩村田でも。
- 4 明治35年(1902)から桜井村でも開塾。

4. 稼堂の「有隣塾」と有縁の人



比田井天来

(明治5年(1872)～大正14年(1925))



比田井小琴

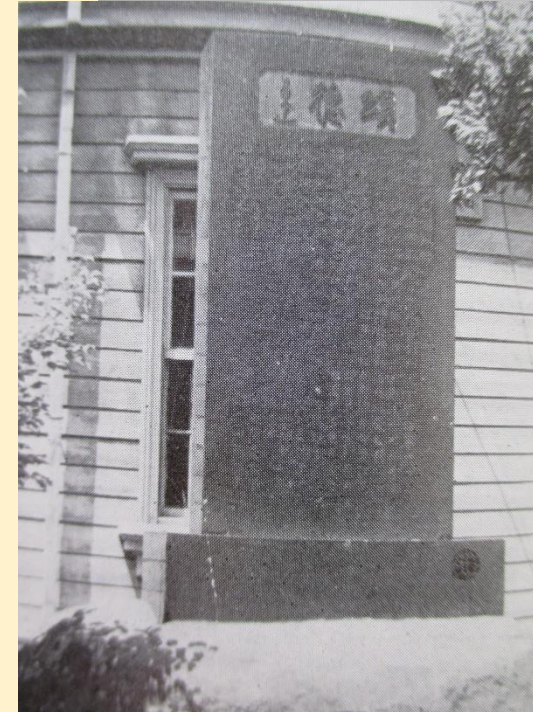
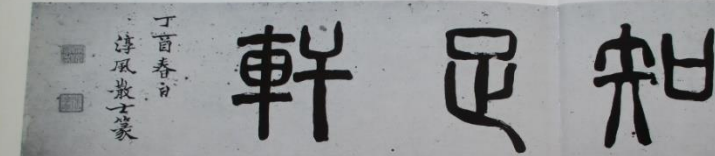
(明治17年(1884)～昭和23年(1949))

資料写真

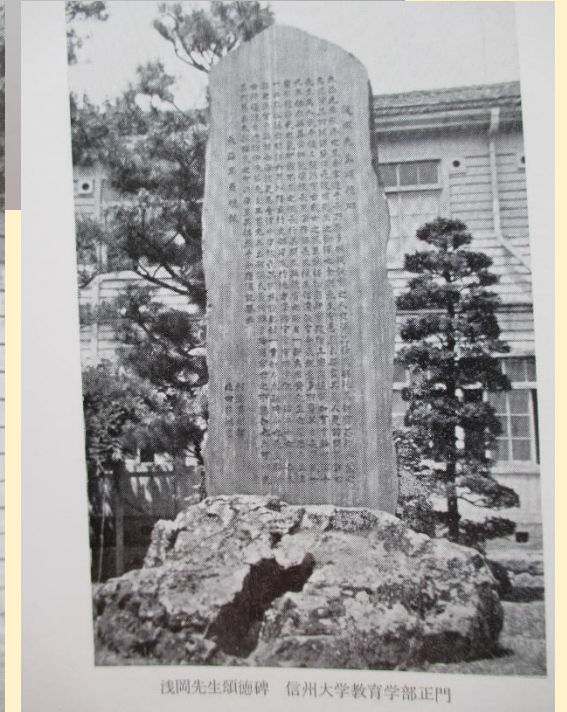
出典:フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

稼堂と小琴は、直接の師弟関係にはない。しかし小琴の師、阪正臣と海上寿子が、芳軒、渋沢、稼堂の系譜から参考に写真を掲載した。

芳軒・梅源・稼堂の共通の師友、鈴木碩石上人の庵の額字

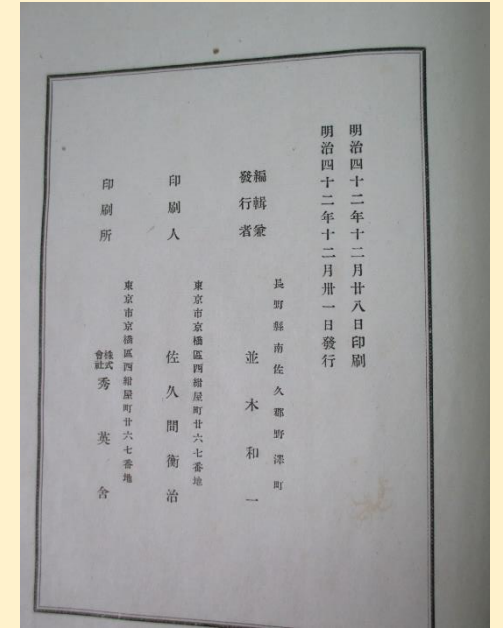
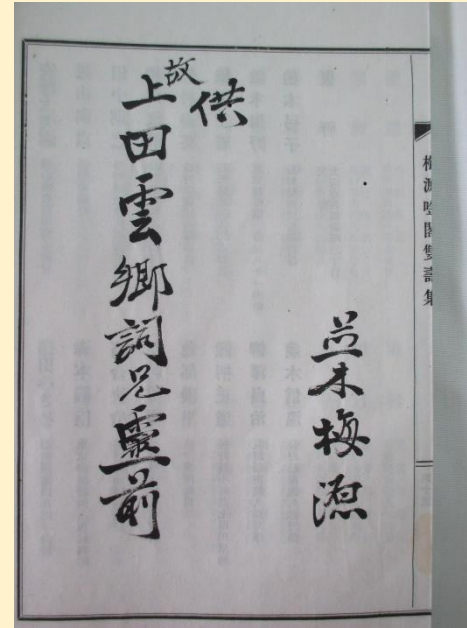
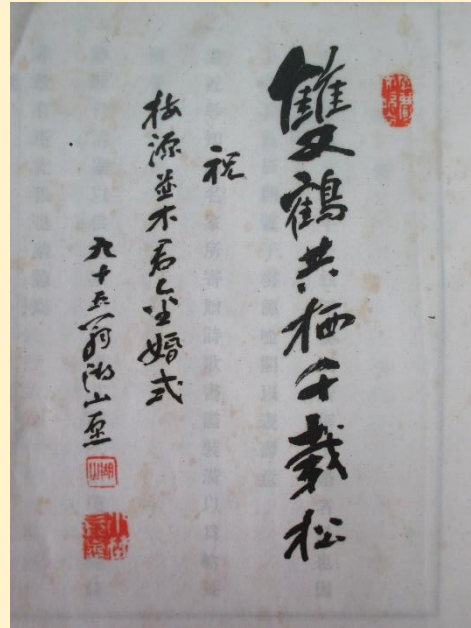
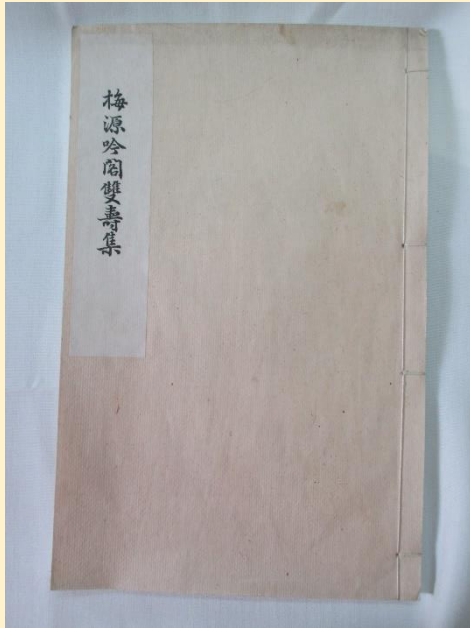


佐藤先生頌徳碑 信濃教育会庭
昭和7年(1932)比田井天来の書

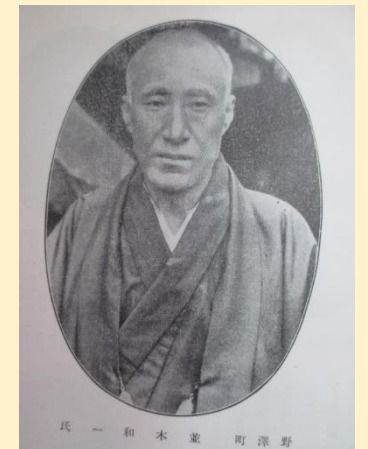


浅岡先生頌徳碑 信濃教育会庭
大正10年(1921)比田井天来の書

5. 金婚式記念詩歌集からわかること



- 1 結婚記念日記念詩歌集『梅源吟閣雙壽集』で瀬木桐邨は、当時の平均寿命を37歳としています。この時梅源は67歳でした。
- 2 結婚記念日の風習は、明治27(1894)3月に行われた明治天皇と昭憲皇太后の大婚25年祝典が始まりでした。



6. 梅源の金婚式を祝った人から判ること

次韵答並木兄見寄

林香 鷺見貞固

送並木梅源之京師

芳軒 木内政元

並木梅源翁の金婚を壽奉りさゝけ侍りぬ
上田龍雄

長歌并短歌及畫

紀龍雄

留別梅源賢契 松塘鱸彦之

癸未小春訪梅源並木君園中鞠花盛開漫走筆題二十八字 鳴雀 日下部東作

賀並木梅源老兄金婚式

竹涯 成瀬利貞

賀梅源詞宗金婚式

雨竹 佐藤知敬

やまふきの布たもとゆゑに金色の

坂正臣

波こそよすれ春の野澤は

丙午新年呈梅源翁兼似寶儉主人疊韻五首 此韻昔者自岡本黃石翁信州詩始然後名於詩之諸子邂逅每來遊信之日即次韻者若干首也 稼堂 依田喜信

7. 当時金婚式は大変珍しかった

謹賀並木梅源先生伉儷五十春

桐邨 瀨 木 昱

十洲三島在何隈。徐福尋仙遂不回。鶴算媼依龜壽叟。
人間却是見蓬萊。

賀梅源並木先生雙壽序

今茲明治戊申梅源並木先生年六十七令夫人年六十六距其授綬安政己未正五十年乃廣徵同人之壽詞將有大賀焉余以歲之丙午始遊此地嘗無半面之識去歲首夏始得先生詩書其詩高逸鏗憂有金玉之音書云曾奉松塘先師之教故於先師壽詞及吟社詩記名吁先師仙後已十年懷舊之情湧

然不能自禁蹶趨通刺以接丰采襟度寬厚言行謹嚴有古君子之風與世之騁智嚮義喪家辱先而覲然無慚者實異令夫人雖未得謁栞瑟相和內助日久亦可知非澆世漓俗之人矣余也職務鞅掌役役營營不得足數至門詩酒徵逐優遊奉歡然時有新得書附使价以候起居然則余之於先生非特嚮遊一朝之好無所賀而可乎按統計志世界人口十四萬億萬年壽平均三十七歲人之享生二歲三歲而短折者有焉七歲八歲而夭殤者有焉或二十而逝或三十而沒生而至三十七歲者不過人口之半由是觀之其齡躋知命者十三四踰耳順而夫妻康健

8. 依田稼堂と岩村田



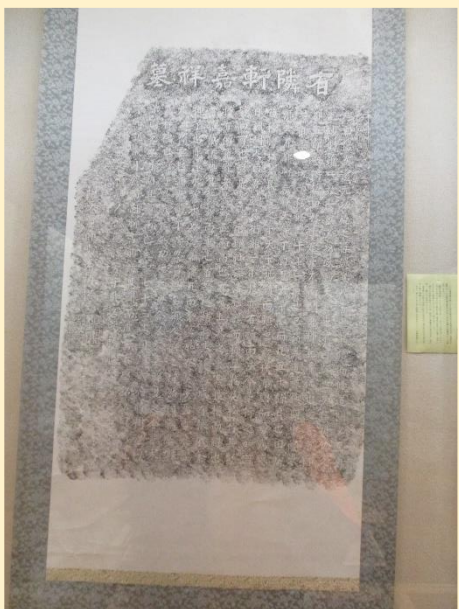
医聖ヒポクラテスの図
五郎兵衛記念館寄託『中原
依田房一家古文書目録』
No.8 明治10年(1877)

- 1 志賀の神津家と依田稼堂。
- 2 上田龍雄がジャージー牛を贈った神津慎吉
- 3 上田龍雄が佐久に招いた木村熊二。
- 4 岩村田時代の稼堂と、天来の最高傑作の書。
- 5 長州佐藤寅太郎と、依田稼堂、源七親子
- 6 山梨県教育を発展させた小林康堂と稼堂

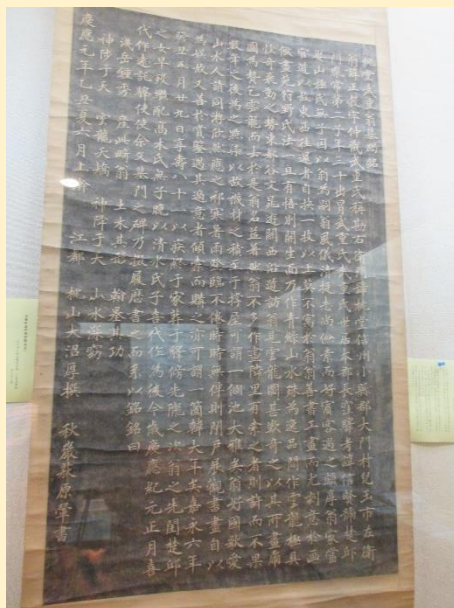


9. 記念館拓本資料から

稼堂、梅源と恩師木内芳軒周辺の系譜・歴史が辿れます。



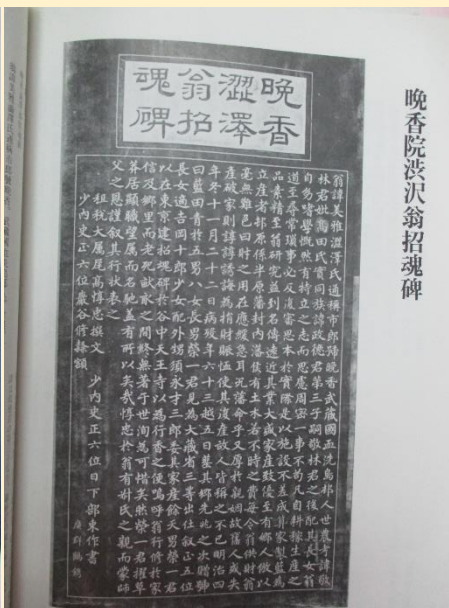
稼堂、梅源が生涯尊敬した
鈴木頑石上人の華道池坊
信濃国会頭土屋有隣軒の
偉業を讃えた碑
五郎兵衛記念館寄託『土
屋芳彦家古文書』



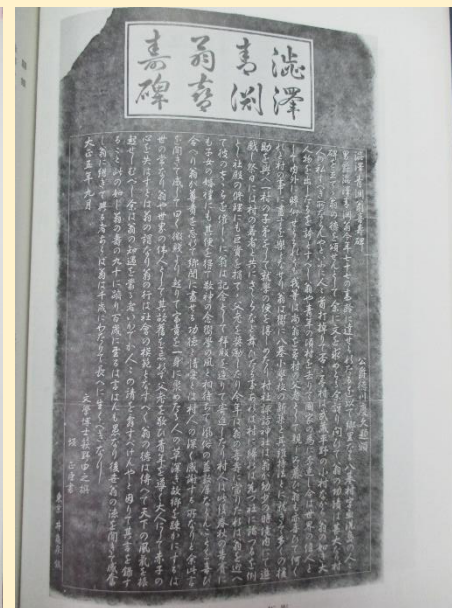
稼堂、梅源の師木内芳
軒の絵画の師、桃堂武
重勘右衛門翁墓碑銘
大沼枕山の撰文です。
五郎兵衛記念館寄託
『中原依田房一家古文
書目録』No.9 慶応元年
(1865)6月



藍香尾高翁頌徳碑
梅源の金婚式が祝われ
た同じ年、旧友の尾高
惇忠の頌徳碑が除幕さ
れました。
碑文を揮毫した日下
部東作(鳴鶴)は、比田
井天来の師でもあり、大
正11年鳴鶴死去した際、
天来は遺品を全て譲り
受けます。



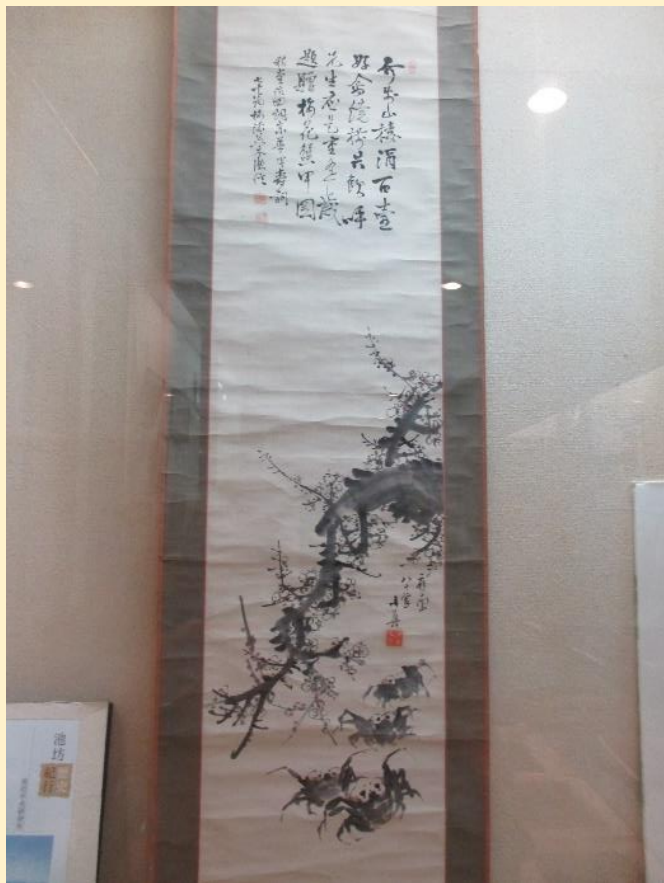
晩香渋沢翁招魂碑
渋沢栄一の父市郎右
衛門の墓碑。揮毫は日
下部東作(鳴鶴)です。
この頃鳴鶴は、頑石
上人が住持していた岸
野大徳寺境内の記念
碑を揮毫しています。



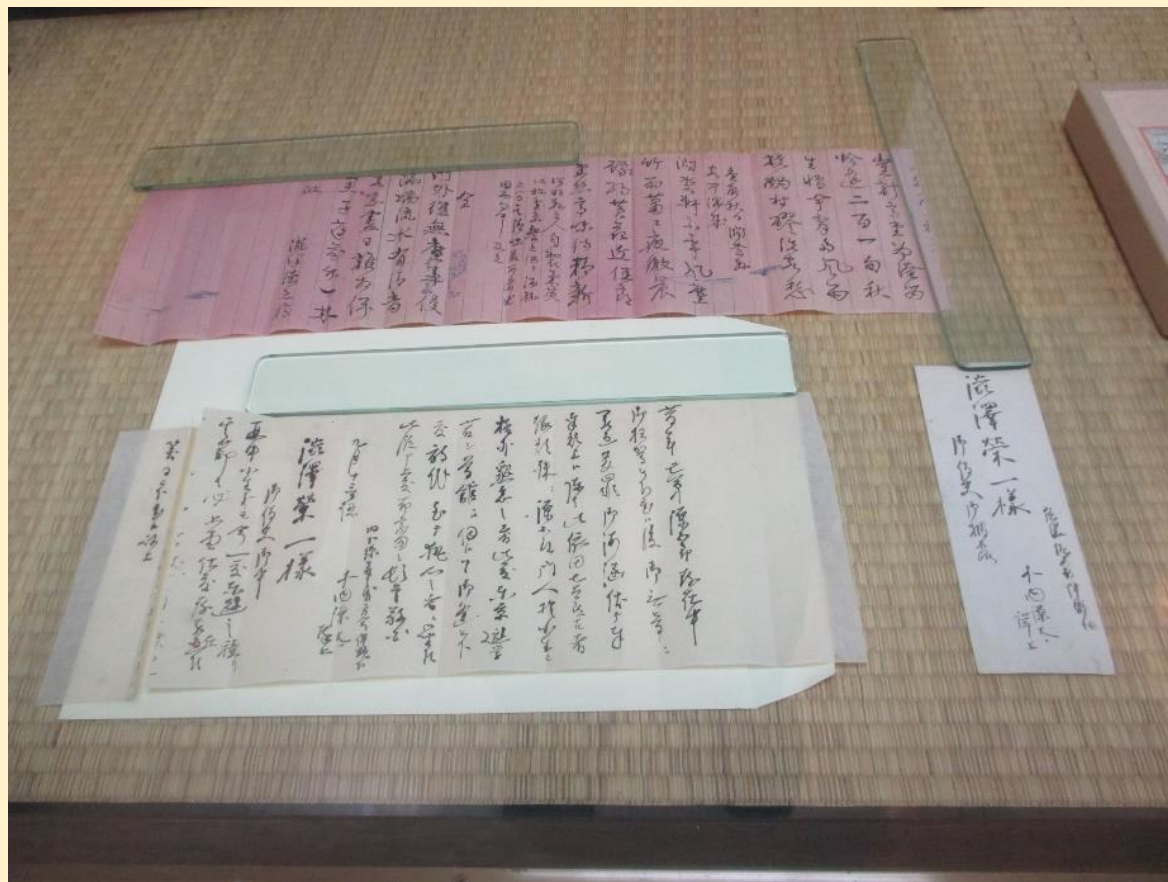
渋沢青淵翁喜寿碑
渋沢栄一の77歳を祝い
深谷血洗島の産土社
に立碑。碑文の書者は
坂正臣は、比田井天来
の妻で仮名の名手比田
井小琴の書道の師。

渋沢栄一関係の碑文説明の出典
山口律雄・清水惣之助共編『渋沢栄一碑文集』 博字堂

10. 依田稼堂の残した貴重な資料

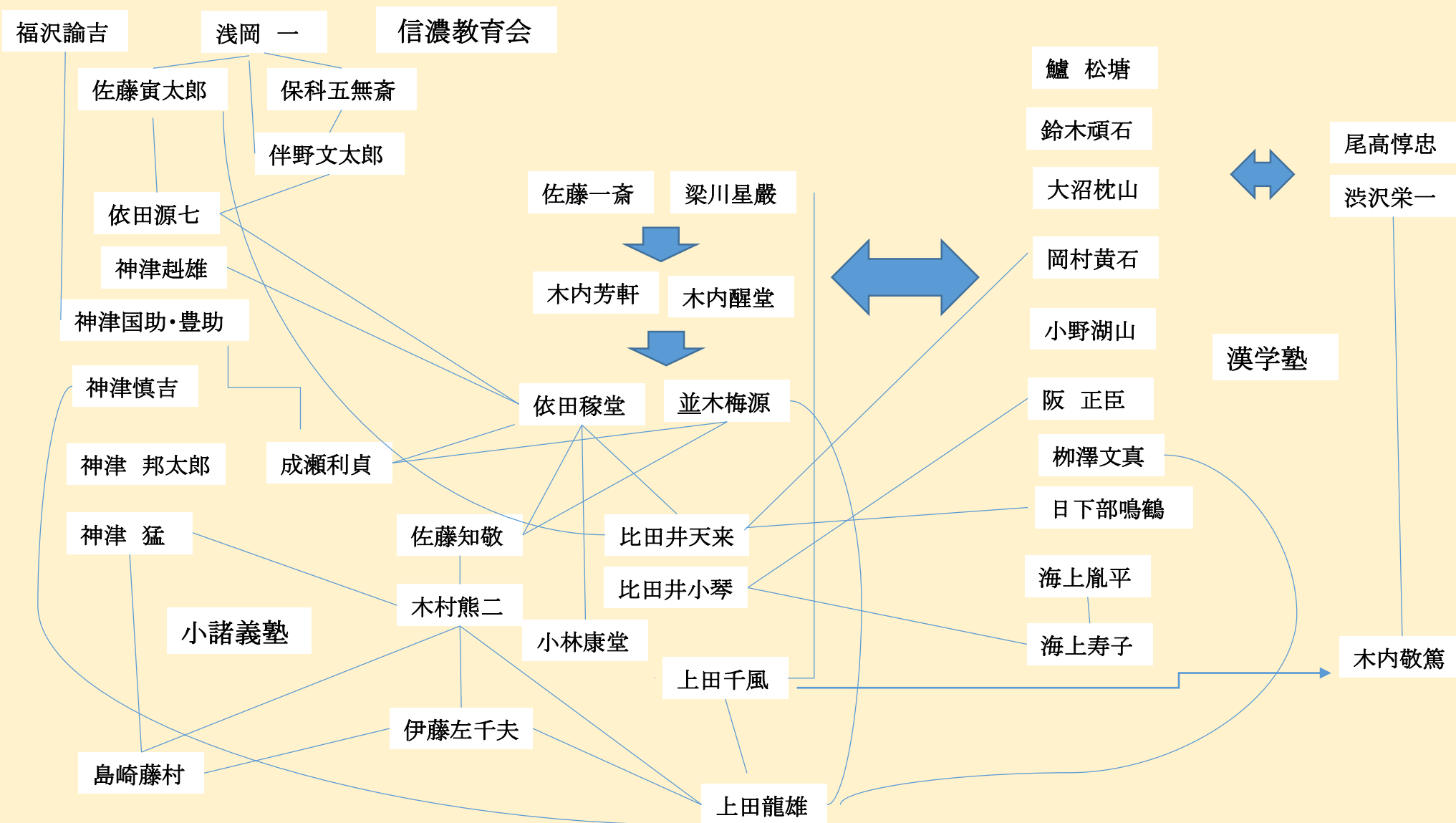


「稼堂の還暦を祝った並木梅源書・柳澤文真の画」
五郎兵衛記念館寄託『中原依田房一家古文書目録』No.14 明治44年
(1877)



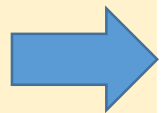
「渋沢栄一宛依田稼堂東京遊学依頼状」
稼堂の師木内芳軒急逝のため、芳軒の兄源太から渋沢栄一あて、依田稼堂が上京して学問が出来るようにとの願い書。
五郎兵衛記念館寄託『中原依田房一家古文書目録』B426

11. 依田稼堂を取り巻く人。

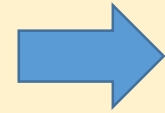


12. 稼堂と明治佐久平の教育制度

1872年(明治5年)「学制」
下等小学校、上等小学校が誕生
教育年限は各4年で計8年。
授業料は有償



1879年(明治12年)「教育令」
教育年限は8年だが最短規定で16か月
授業料は有償



1880年(明治13年)「改正教育令」
教育年限は8年だが最短規定3年
授業料は有償

明治6年稼堂三等訓導免状付与
翌7年まで村右文学校訓導勤務



明治7年から10年まで稼堂上京
鱸松塘・大沼枕山、小野湖山に師事

明治10年から南北佐久で漢学教授



明治13年から明治30年まで
野沢で「依田有隣塾」を開設

明治8年現上田高校創立



明治9年現松本深志高校創立



明治15年現飯田高校創立

明治16年現長野高校創立

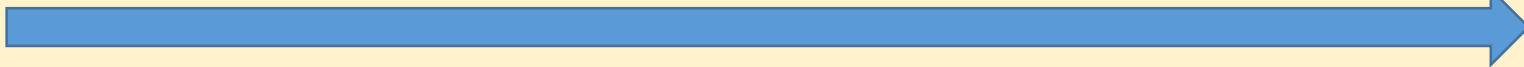
1886年(明治19年)「小学校令」
『義務教育』の文言が登場
義務教育は尋常3～4年間と規定
授業料は有償



1890年(明治23年)「第2次小学校令」
地方に学校設置を義務化。
不通学でも家庭学習で就学義務免除授業料は
有償



1900年(明治33年)「第3次小学校令」
義務教育は尋常小学校4年に。
授業料が無償に



明治31年から明治44年まで
岩村田で「依田有隣塾」を開設

明治19年文部省一県一中学令



明治37年(1904)野沢中学校独立開校

大正12年(1924)岩村田町立岩村
田中学校創立